

伊丹市立図書館 ことば蔵

〒664-0895

兵庫県伊丹市宮ノ前3丁目7番4号

☎072-783-2775

<http://www.itami-library.jp/>

よんでよんが
絵本



伊丹市立図書館ことば蔵

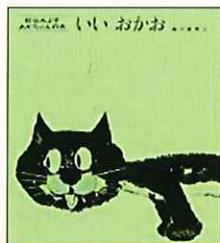
もくじ

■ あかちゃんと楽しむ絵本……………	2
■ 3歳から……………	5
■ 5歳から……………	12
■ 知識の絵本……………	16

～ この冊子をお読みになる方へ ～

- 現在（平成25年2月）発行されている絵本の中から100点を選びました。
- 年齢別に書名の50音順に並んでいます。
- 対象年齢はあくまでも目安です。
- それぞれ、書名、著者（本の奥付どおり）、出版社、大きさ、内容を載せています。

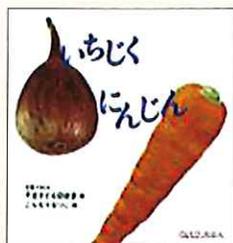
あかちゃん と 楽しむ絵本



『いい おかお』

松谷 みよ子／文
瀬川 康男／絵
童心社 21×19cm

ふうちゃんが一人で「いいおかお」をしていました。そこへねこがやってきて、ねこもまねをしていいおかおをしました。すると、いぬやぞうさんもやってきて一緒に並んでいいおかおをしました。



『いちじく にんじん』

大阪 YMCA 千里子ども図書室／案
ごんもり なつこ／絵
福音館書店 20×20cm

誰でも一度は耳にしたことのある「いちじく にんじんさんしょに しいたけ ごぼう…」のかぞえうたに、ほんものそっくりのいちじくやにんじんなどが描かれています。



『おててがでたよ』

林 明子／作
福音館書店 18×19cm

赤ちゃんが一生懸命服を着ています。「ばっ」とおててが出できました。「ばあー」おかも出たよ。あんよはどこかな、出てきた、出てきた「すぼん」とできました。



『がたんごん がたんごん』

安西 水丸／作
福音館書店 18×19cm

汽車が「がたんごん がたんごん」とやってきました。「のせてくださーい」と哺乳瓶がのりました。コップにスプーン、りんごにバナナもりました。



『くだもの』

平山 和子／作
福音館書店 22×21cm

すいか、もも、ぶどう、なし、りんご、いちごにかき。おいしそうな果物を「さあ、どうぞ。」バナナの皮も上手にむけました。



『いない いない ばあ』

松谷 みよ子／文
瀬川 康男／絵
童心社 21×19cm

ねこのやあにやあやくまちゃん、ねずみ、こんこんぎつねたちが、つぎつぎに「いないいないばあ」をしています。のんちゃんもまげずに「いないいないばあ」をします。



『おさじさん』

松谷 みよ子／文
東光寺 啓／絵
童心社 21×19cm

お山を越えて、野原を越えて、おさじさんがやってきました。うさぎさんがいい匂いの「たまごいりのおかゆ」をたべるところでした。おさじさんは「おいしいもの」をうさぎさんの口へはこびます。



『おつきさまこんばんは』

林 明子／作
福音館書店 18×19cm

屋根の上が明るくなりお月さまのぼってきました。くもさんが出てきてお月さまを隠します。でも大丈夫。すぐにまたお月さまが顔をだしました。くもさんもお月さまとお話をしていたそうです。



『じゃあじゃあ びりびり』

まつい のりこ／作・絵
偕成社 14×14cm

じどうしゃ「ぶーぶーぶー」、いぬ「ワンワン」、みず「じゃあじゃあじゃあ」、そうじき「ぶいーんぶいーん」にわとり「こけこっこー」など、いろいろなものがいろいろな音をきかせてくれます。



『たまごのあかちゃん』

かんざわ としこ／文
やぎゆう げんいちろう／絵
福音館書店 22×21cm

「たまごのなかでかくれんぼしてるあかちゃんはだあれ、でておいで」にわとりやかめが出てきました。おおきなたまごはペンギンの赤ちゃんです。もっと大きなたまごからはきょうりゅうの赤ちゃんが出てきました。



『たんたん ぼうや』

かんざわ としこ／文
やぎゆう げんいちろう／絵
福音館書店 20×20cm

たんたんぼうやが「たんたん」あるいていくと、あとからあとからひよこ、犬、さるやうさぎ、らいおんがついて来ました。みんなでていっしょにおおきなあくびをしていたら、こんどはぞうが寝ていました。



『でてこい でてこい』

はやし あきこ/作
福音館書店 20×20cm

緑のはっぱの中にだれかがかくれているよ。でてこいでてこい。「げこげこげこ」かえるが飛びだしました。ピンクのおうちにだれかがかくれているよ。でてこい でてこい。「びょーんびょん」うさぎが出てきました。



『どうぶつのおかあさん』

小森 厚/文
数内 正幸/絵
福音館書店 22×21cm

動物のおかあさんたちはいろいろな方法で赤ちゃんを運びます。猫やライオンはくわえて運びます。さるやチンパンジーはだいて運びます。コアラはおんぶして運びます。ぞうは鼻で押して歩かせます。



『なーんだ なんだ』

カズコ G・ストーン/作
童心社 21×19cm

「なーんだ なんだ」のフレーズを繰り返しながら、パンダが少しずつ現れてきました。黒いふたつの耳、目、鼻、そしてお母さんパンダにだっこされた赤ちゃんパンダが現れました。



『もこもこもこ』

谷川 俊太郎/作
元永 定正/絵
文研出版 29×23cm

しーんとした空気の中で、平らな地面が「もこ」「もこもこ」、「によき」「によきによき」ともりあがってきました。もりあがった地面から今度は「つん」と風船のようなものができて「ぼろり」と落ちました。



『よくきたね』

松野 正子/文
鎌田 暢子/絵
福音館書店 20×20cm

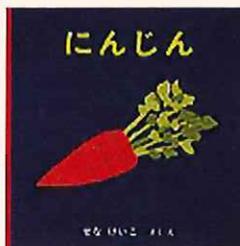
動物のおかあさんたちが「おいでおいで ここまでおいで」と、よちよち歩きの赤ちゃんをさそいます。「よくきた よくきた いいこいいこ」動物たちはそれぞれの表現で赤ちゃんをかわいがります。



『りんご』

松野 正子/文
鎌田 暢子/絵
童心社 18×18cm

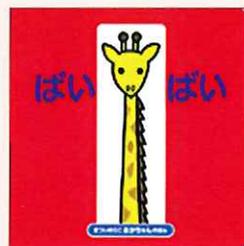
お母さんがむいてくれる赤や黄色、ピンクのりんごを、テーブルの上にやっと顔が届くくらい坊やがわくわくしながら見えています。皮をむき白くなったりんごがおいしそうです。



『にんじん』

せな けいこ/作・絵
福音館書店 17×17cm

にんじんの好きな子だあれ。うまさん、キリンさん、おさるさん、ぶたさん、うさぎさんもみんな大好きです。うさぎさんみたいににんじんの好きな元気な子はだれですか。



『ばいばい』

まつい のりこ/作・絵
偕成社 14×14cm

ひよこさんが、にこにこしながら「こんにちは」とあいさつし「ばい ばい」と手を振っています。ぞう、うさぎ、きりん、かえるたちも次々に「こんにちは」「ばいばい」とあいさつします。



『はしるの だいすき』

わかやま しずこ/作
福音館書店 20×20cm

にぎやかな足音をたてて動物たちが走ってきました。しまうまは「ばんか ばんか」、らいおんは「ずんか ずんか」、きりんは「どっば どっば」、「ごずん ごずん」走って来たのはぞうさんでした。

3歳
から



『アンガスとあひる』

マージョリー・フラック/作・絵
瀬田 貞二/訳
福音館書店 18×26cm

アンガスは、知りたがりやの子犬です。ある日、一番知りたかった音の正体、あひるに出会います。アンガスは、追いかけてみますが、やがてあひるたちに反撃され、家に逃げ込みます。



『いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう』

バージニア・リー・パートン/文・絵
むらおか はなこ/訳
福音館書店 31×24cm

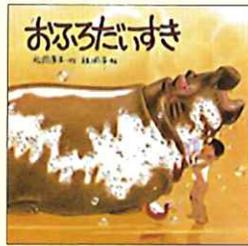
ある日、小さな機関車ちゅうちゅうは、客車をひかずにひとりだけで走りたいと思い、走りだします。踏切をぬけ、はね橋を飛び越え勢いよく進みますが、道に迷ってしまいます。



『おおきなかぶ』
ロシアの昔話

A・トルストイ／再話
佐藤 忠良／画
内田 莉紗子／訳
福音館書店 20×27cm

おじいさんが植えたかぶは、大きな大きなかぶになりました。おじいさん一人では抜けません。おじいさん、おばあさん、まご、いぬ、ねこ、ねずみ、みんなで力をあわせて「うんとこしょ どっこいしょ」。



『おふるだいすき』

岡岡 享子／作
林 明子／絵
福音館書店 26×27cm

まごちゃんが、あひるのブッカをつれてお風呂に入っていると、かめやペンギンやオットセイ、そして大きなかばやくじらまで出てきます。みんなで一緒に仲良くお風呂に入ります。



『おやすみなさい フランス』

ラッセル・ホーバン／文
ガース・ウィリアムズ／絵
まつおか きょうこ／訳
福音館書店 26×21cm

フランスは寝る時間になり、ベッドに入りますが、なかなか眠れません。大男がいる、天井の割れ目から恐いものが出て来そう・・・と何度も起きてきます。その度に両親に優しくたしなめられ、やっと眠りにつきます。



『ぐりとぐら』

中川 李枝子／作
大村 百合子／絵
福音館書店 20×27cm

お料理することと食べることが大好きな、のねずみのぐりとぐら。森の中で大きな卵を見つけ、ふわふわの大きなカステラを焼きます。いいにおいに誘われて森中の動物たちが集まってきます。



『くんちゃんのだいいょこう』

ドロシー・マリノ／文・絵
石井 桃子／訳
岩波書店 27×19cm

くんちゃんは、小鳥が南に渡っていくと聞き、自分も南の国へ行こうとします。丘の上まで行くと、お母さんへのさよならのキス、双眼鏡、水筒など必要な物を思い出し、取りに戻ります。



『こすずめのぼうけん』

ルース・エインズワース／作
堀内 誠一／画
石井 桃子／訳
福音館書店 20×27cm

おかあさんすずめに飛び方を習い始めた、こすずめ。もっと遠くまで飛べると思って、自分だけで飛び続けませんが、疲れて休みたくなります。次々に鳥の巣をたずねますが、断られ、日も暮れてきます。



『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック／作
神宮 輝夫／訳
富山房 24×26cm

マックスは、おかあさんに叱られ、夕ご飯ぬきで寝室に放り込まれます。すると寝室は森になり、波が舟を運んできます。マックスは、その舟で航海し、かいじゅう達の国に着き、王様になります。



『かにむかし』
日本むかしばなし

木下 順二／文
清水 崑／絵
岩波書店 33×26cm

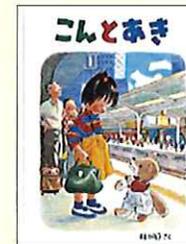
かにが大事に育てた柿の木に、実がなりました。そこにサルがやってきて、柿の木をもぎ、木の上からかににぶつけます。つぶれたかにから生まれた子かにたちが、仲間をつれて親かにの仇打ちにでかけます。



『くまさん くまさん』

中川 李枝子／作
山脇 百合子／絵
福音館書店 25×24cm

くまさんが、はをみがいたり、おべんきょうをしたり、エプロンかけてお手伝いしたり。「くまさん くまさん エプロンかけて」「くまさん くまさん おてつだい」くまさんは大忙しです。



『こんとあき』

林 明子／作
福音館書店 28×22cm

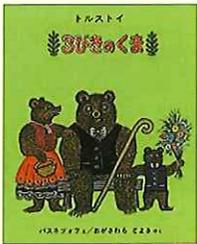
あきは、キツネのぬいぐるみの こん ととっても仲よしです。ある日、古くなってほころびてきた こん をなおしてもらうため、一緒に電車に乗って、おばあちゃんの所へでかけます。



『サリーのこけももつみ』

ロバート・マックロスキー／文・絵
石井 桃子／訳
岩波書店 23×29cm

ある日、サリーとお母さんは、こけもも摘みに出かけます。その時クマの親子も同じ山に来ていました。ところが、サリーと子グマは、しげみの中で互いにお母さんを取り違えてしまいます。



『3ビきのくま』

トルストイ／文
パスネツォフ／絵
おがさわら とよき／訳
福音館書店 28×23cm

3ビきのくまが森の中の小屋で暮らしていました。大きなお父さんぐまと中くらいのお母さんぐまと小さいこぐまで。ある日、3ビきのクマが散歩に出かけている間に、道に迷った女の子がやってきます。



『三ビきのやぎの がらがらどん』

ノルウェーの昔話
マーシャ・ブラウン／絵
せた ていじ／訳
福音館書店 26×21cm

昔、三匹のやぎがいました。名前はどれもがらがらどん。ある時、草を食べるために山に登ろうとしますが、途中の谷川にかかっている橋の下にはやぎを食べようと怪物トロールが待ち構えていました。



『しょうぼうじどうしゃ じぶた』

渡辺 茂男／作
山本 忠敬／絵
福音館書店 20×27cm

じぶたは、古いジープを改良した、ちびっこ消防車。はしご車ののっぽ君や高圧車のぼんぶ君や救急車のいちもくさんをうらやましく思っていました。そんなある日、山火事になるのを防いで大活躍します。



『だいくとおにろく』

日本の昔話
松居 直／再話
赤羽 末吉／画
福音館書店 20×27cm

流れの速い大きな川に橋をかけてくれと頼まれた大工が、川を眺めていると、鬼が現れます。目玉をよこせば代わりに橋をかけると言い、橋をかけた鬼は、目玉をよこせとせまります。



『だるまちゃんと てんぐちゃん』

加古 里子／作・絵
福音館書店 20×27cm

だるまちゃんは、てんぐちゃんの持っているものが欲しくなります。大きなだるまどんは、少しずつ違っているけれど、うちわ、帽子、はきもの、長い鼻などを次々出してくれます。



『たんじょうび』

ハンス・フィッシャー／文・絵
おおつか ゆうぞう／訳
福音館書店 23×31cm

リゼッテおばあちゃんは、たくさんの動物たちと暮らしています。今日は、リゼッテおばあちゃんの誕生日。ねこのマウリとルリといぬのペロは、おばあちゃんのお誕生日のお祝いにすてきなことを計画します。



『しろくまちゃんの ほっとけーき』

若山 憲ほか／著
こくま社 20×21cm

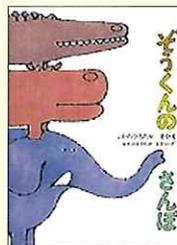
しろくまちゃんが、おかあさんと一緒にホットケーキを作ります。ぼたあん、どろどろ、びちびち、ぷつぷつ、ぺたん、ぼいっ、はいできあがり。こくまちゃんと一緒にほかほかのホットケーキをいただきます。



『スイミー』

レオ・レオニ／作
谷川 俊太郎／訳
好学社 28×23cm

小さな黒い魚のスイミーは、ひとりぼっち。兄弟たちは、大きなマグロにのみこまれてしまったからです。ある日、仲間を見つけたスイミーは、みんなが一緒になって大きな魚のふりをして泳ぐことを思いつきます。



『ぞうくんのさんぽ』

なかの ひろたか／作・絵
福音館書店 27×20cm

散歩にでかけたぞうくんは、かばくんに会い、かばくんに背中に乗せて歩きます。その後、わにくん、かめくんとも出会い、次々と背中に乗せて散歩を続けます。だんだん重くなって背が高くなり、「うわーっ」「どっぼーん」。



『ちいさい おうち』

ばーじにあーりー・ばーとん／文・絵
石井 桃子／訳
岩波書店 24×25cm

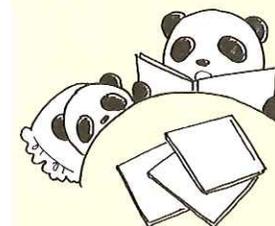
ちいさいおうちは、田舎の静かな所に建てられ、四季を感じながら幸せに暮らしていました。ところが、自動車が走るようになり、電車が行ったり来たりし、すっかり様変わりしてしまいます。



『ちいさなうさこちゃん』

ディック・ブルーナ／文・絵
いしい ももこ／訳
福音館書店 17×17cm

ふわふわさんとふわおくさんに赤ちゃんが生まれ、うさこちゃんと名づけられます。あちこちから動物たちがお祝いにやってきますが、赤んぼうさぎのうさこちゃんは、くたびれて、こっくり、こっくり。





『ちいさなねこ』

石井 桃子/作
横内 襄/絵
福音館書店 20×27cm

子ねこは、お母さんねこが見ていない間に外へ走り出します。子どもにつかまりそうになったり、自動車にひかれそうになったり。今度は大きな犬に追いかけれ、木の上へかけ登ります。



『てぶくろ』

ウクライナ民話
エウゲーニー・M・ラチョフ/絵
うちだ りさこ/訳
福音館書店 28×23cm

おじいさんが森で落とした手袋の中に、森の動物たちが次々に入ります。くいしんぼねずみ、ぴよんぴよんがえる、はやあしうさぎ、きぼもちいのししやのっそりぐまも入って、手袋は今にもはじけそうです。



『どろんこハリー』

ジーン・シオン/文
マーガレット・プロイ・グラム/絵
わたなべ しげお/訳
福音館書店 31×22cm

ハリーは、黒いぶちのある白い犬です。なんでも好きだけど、お風呂に入ることは大嫌い。ある日、お湯を入れる音を聞いて、逃げ出します。たくさん遊んでいるうちに、白いぶちのある黒い犬になってしまいました。



『はらぺこあおむし』

エリック・カール/作
もり ひさし/訳
偕成社 22×31cm

日曜日の朝、たまごから、ぼん！と ちっほけなあおむしがうまれました。あおむしは、お腹がぺっこぺこ。月曜日、りんごをひとつ食べました。たくさん食べたあおむしは、やがて、美しい蝶になりました。



『ピーターラビットのおはなし』

ビアトリクス・ポター/作・絵
いしい ももこ/訳
福音館書店 15×11cm

あるところに、四ひきのちいさなうさぎがいました。名前は、フロブシーにモブシーにカントンテールにピーターです。いたずらっこのピーターは、ある日マグレガーさんの畑にしのごみます。



『ふしぎなたけのこ』

松野 正子/作
瀬川 康男/絵
福音館書店 20×27cm

たろは、たけのこを掘りに行き、上着をすぐそばのたけのこに掛けました。その途端、たけのこは、ぐぐぐと伸び、上着を取ろうとびついた、たろをのせたまま、空へ向かって、ぐんぐんのびていきました。



『はじめてのおつかい』

筒井 頼子/作
林 明子/絵
福音館書店 20×27cm

みいちゃんは、ママに頼まれ、はじめてのおつかいに出かけます。百円玉をしっかりと握りしめ、どきどきしながら坂の上のお店を目指します。転んだり、小さな声が出ませんでした。



『はなをくんくん』

ルース・クラウス/文
マーク・シーモント/絵
きじま はじめ/訳
福音館書店 31×22cm

雪が積もった森の中で、動物たちはみんな眠っています。あれ、動物たちが、はなをくんくんし始めました。みんな、はなをくんくん。そして、みんな駆けて行きます。その先には、お花がひとつ咲いていました。



『ぼとんぼとはなんのおと』

神沢 利子/作
平山 英三/絵
福音館書店 27×20cm

くまのぼうやが、冬ごもりの穴の中で母さんくまにたずねます。「ぼとんぼとんってなんの音」。つららが溶けて、きらきらしずくを落としている音でした。もうそこまで春がきているようです。



『マーシャとくま』

M・プラウトフ/再話
E・ラチョフ/絵
うちだ りさこ/訳
福音館書店 28×23cm

マーシャは、森の中で迷ってしまい、森の奥深くに住む、おおきなくまに捕えられてしまいます。マーシャは、知恵をはたらかせ、くまの背負う、つづらの中にかくれて家に帰ります。



『まりーちゃんとひつじ』

フランソワーズ/文・絵
与田 準一/訳
岩波書店 21×17cm

まりーちゃんは羊のばたぼんに言いました。子羊が一匹生まれたら、その毛を売ってすきなものが買えるでしょう。二ひきならくつが、三ひきなら帽子がと、夢がふくらみます。



『ももたろう』

松居 直/文
赤羽 末吉/画
福音館書店 21×22cm

おばあさんが川でひろった桃から男の子が生まれ、桃太郎と名づけられました。大きくなった桃太郎は、犬と猿と雉をお供にして、鬼が島に鬼退治に行き、お姫様を助けます。



『もりのなか』

マリイ・ホール・エッツ/文・絵
まさき りこ/訳
福音館書店 19×27cm

男の子が、紙のぼうしをかぶり、新しいらっぱを持って、森へ散歩に出かけます。するとライオンや象やくまなど、動物たちが次々ついてきて、動物たちが次々ついてきて、みんなで行進です。そのあと、おかしを食べて楽しく遊びます。



『ゆきのひ』

エズラ・ジャック・キーツ/文・絵
きじま はじめ/訳
偕成社 23×26cm

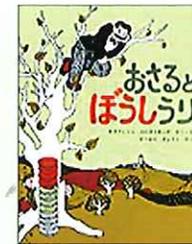
冬のある朝、ピーターが目をさますと、あたり一面、雪が積もっていました。ピーターは外へとびだし、足跡をつけてみたり、雪だるまを作ったり、やまのほりごっこをしたり、一日中雪で遊びます。



『おさらをあらわなかったおじさん』

フリリス・クラジラフスキー/文
バーバラ・クーニー/絵
光吉 夏弥/訳
岩波書店 21×17cm

町のはずれに男の人が一人で住んでいました。晩御飯を作るのも、後かたづけも自分でします。ある日、疲れていたのでおさらを洗いませんでした。次の日も次の日も洗いませんでした。おさらはどんどんたまっていきます。



『おさとぼうしうり』

エスフィール・スロポドキーナ/作・絵
まつおか きょうこ/訳
福音館書店 22×17cm

あるところに、頭に売り物の帽子をたくさん乗せて売り歩く帽子売りがいました。ある日、帽子売りは大きな木の下で休み、昼寝をすることにしました。長いこと眠りました。起きてみると頭に乗せていた帽子がありません。



『おいしいのぼうけん』

古田 足日・田畑 精一/作
童心社 27×19cm

さくら保育園には怖いものが二つあります。一つは押し入れでもう一つはねずみばあさんです。ある日、先生の言うことを聞かないさととあきらは押し入れに入れられてしまいました。



『わたしのワンピース』

にしまき かよこ/絵・文
こくま社 20×22cm

うさぎさんは、空から落ちてきた真っ白なきれでワンピースを作りました。お花畑に行くとワンピースは花模様になり、雨が降ると水玉のように、次々と変わります。ララン ロロン すてきなワンピースです。



『王さまと九人のきょうだい』

中国の民話

赤羽 末吉/絵
君島 久子/訳
岩波書店 26×20cm

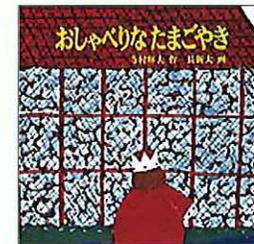
子どものいないおじさんとおばあさんに一度に9人もの赤ん坊が生まれました。この9人のきょうだいは顔も体つきもそっくりでした。そして9人ともそれぞれふしぎな力を持っていました。



『おじさんのかさ』

佐野 洋子/作・絵
講談社 31×22cm

おじさんは、とってもりっぱな傘を持っていました。出かける時はいつも持って歩きました。でも、雨が降ったら濡れたまま歩くが、雨宿りをしなくて傘をさしません。傘が濡れるからです。



『おしゃべりなたまごやき』

寺村 輝夫/作
長 新太/画
福音館書店 26×27cm

ある国のある王さまのお話です。鶏小屋でぎゅうぎゅう話めになって鳴いている鶏をみると王さまは、かわいそうになり扉を開けました。鶏はどつと逃げ、見張りはびっくり。お城の中は大騒動になりました。



『おそばのくきはなぜあかい』

にほんむかしばなし

石井 桃子/文
初山 滋/絵
岩波書店 21×17cm

各地で語り継がれてきた「おそばのくきはなぜあかい」「おししのくきはなぜあかい」「うみのみずはなぜからい」の三話が収録されています。



『かもさん おとおり』

ロバート・マックロスキー／文・絵
わたなべ しげお／訳
福音館書店 31×23cm

子育て中のかものマラードさんは、子がもたちに泳ぎ方もぐり方、そして一列に並んで歩くことを教えました。ある日、かもたちは一列に並んで、大通りを渡り公園の中の池に向かって歩きだしました。



『クリスマス人形のねがい』

ルーマー・ゴッデン／文
バーバラ・クーニー／絵
掛川 恭子／訳
岩波書店 27×26cm

ホリーという名前のお人形と施設で暮らしている女の子アイビー、そしてジョーンズさんのおくさんの「ねがいごと」のお話です。お人形は家を、女の子は家族を、おくさんは女の子を欲しがっていました。



『こねこのチョコレート』

B・K・ウィルソン／作
大社 玲子／絵
小林 いづみ／訳
こぐま社 25×19cm

ジェニーは、弟クリストファーの誕生日のプレゼントに「こねこのチョコレート」を買いました。その晩ジェニーはなかなか眠ることができません。おいしそうな「こねこのチョコレート」が頭から離れないのです。



『チムとゆうかんなせんちょうさん』

エドワード・アーディゾーニ／作
せた ていじ／訳
福音館書店 27×20cm

船乗りになりたいチムは、いつもマクフィー船長のところへ出かけて行きます。船長の航海の思い出話を聞き、チムはますます船乗りになりたくてたまらなくなりました。ある日、チムはこっそり船に乗り込みました。



『はなのすきなうし』

マンロー・リーフ／作
ロバート・ローソン／絵
光吉 夏弥／訳
岩波書店 21×17cm

昔、スペインにフェルジナンドというかわいい子牛がいました。フェルジナンドは他の子牛と違って静かに花のにおいをかいでるのが大好きでした。そんなフェルジナンドが闘牛に出場する羽目になってしまいました。



『ひとまねこざるときいろいぼうし』

H.A.レイ／文・絵
光吉 夏弥／訳
岩波書店 28×22cm

アフリカに住んでいるさるのジョージは、好奇心旺盛でしりたがりやで、ひとまねが大好きでした。ある日、ジョージは黄色い帽子のおじさんと一緒にアメリカに行くことになりました。



『しずかなおはなし』

サムイル・マルシャーク／文
ウラジミール・レーベデフ／絵
うちだ りさこ／訳
福音館書店 28×23cm

はりねずみのとうさんとかあさんとぼうやのお話です。真夜の暗い道を家族そろって散歩に出かけました。秋の小道を静かに歩きます。そこへ狼がこっそり忍び寄ってきました。はりねずみたちは体の針を逆立てます。



『ジョニーのかたやきパン』

ルース・ソーヤー／文
ロバート・マックロスキー／絵
こみや ゆう／訳
岩波書店 27×21cm

昔、とんがり山の中腹におばあさんとおじいさん、手伝いのジョニーという男の子が住んでいました。ある日、食べる物もなくなり、家を出て行くことになったジョニーに、おばあさんはかたやきパンを持たせてやりました。



『スーホの白い馬』

モンゴル民話
大塚 勇三／再話
赤羽 末吉／画
福音館書店 23×31cm

モンゴルの草原にスーホという羊飼いの少年がいました。スーホは生まれたばかりの白い子馬を見つけ育てることになりました。白い馬は雪のように白く誰でも見とれるほどでした。スーホはかわいくてたまりませんでした。



『ふたりはともだち』

アーノルド・ローベル／作
三木 卓／訳
文化出版局 22×15cm

仲良しのがまくんとかえるくんのお話です。春が来たのに起きようとしながまくん。かえるくんは一生懸命誘いますが、がまくんは5月になったら起きると言います。そこでかえるくんは良いことを思いつきました。



『むぎばたけ』

アリスン・アトリー／作
片山 健／絵
矢川 澄子／訳
福音館書店 22×24cm

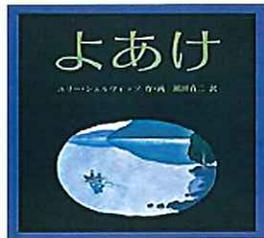
夏の夕方、一匹のハリネズミが楽しそうに鼻歌を歌いながら、野道をやってきました。月明かりの中をむぎばたけを見に行くのです。小道を通り小川を渡り小高い丘に着くと、目の前には輝くコムギ畑が広がっていました。



『ヤクーバとライオン I 勇気』

ティエリー・デデュール／作
柳田 邦男／訳
講談社 31×22cm

アフリカの小さな村では戦士になるために、たくましく勇気があることを示さなければなりません。今日はその儀式の日です。ヤクーバも一人でライオンと戦い倒さなければなりません。



『よあけ』

ユリー・シュルヴィッツ／作・画
瀬田 貞二／訳
福音館書店 24×26cm

夜明け前、音もなく、静まりかえった湖のほとり。もやにおおわれ、鳥がどこかで鳴きかわす中、木の下で寝ていた、おじいさんとまごが起きだします。ボートをこぐうち、山と湖がみどりになり、やがて朝を迎えます。



『ルピナスさん』

小さなおばさんのお話
バーバラ・クーニー／作
掛川 恭子／訳
ほるぷ出版 21×27cm

幼いアリスは夜になるとおじいさんから、遠い国々のお話をしてもらいました。大人になったアリスはおじいさんとの約束を守るため、町中にルピナスの花の種をまき、いつしかルピナスさんと呼ばれるようになりました。



『アリからみると』

桑原 隆一／文
栗林 慧／写真
福音館書店 26×24cm

トノサマバッタのあしやアマガエル、トンボの眼も、近くで見ると迫力満点！アリの目で見た小さな生き物たちの世界。



『かさぶたくん』

やぎゆう げんいちろう／作
福音館書店 26×24cm

「かさぶた」できたこと、ある？かさぶたって、なんだろう？かさぶたのしたは、どうなっているのかな。かさぶたのできかたとはたらきを、やさしく解説します。



『かわ』

加古 里子／作・絵
福音館書店 20×27cm

山に降った雨や、岩から湧き出した水は、集まって流れをつくります。流れは川となつて、山から谷を通り平野をぬけて、最後には海に注ぎこみます。川がつくられる様子を、人間や土地とのかわりとともに描きます。

知識の絵本



『あかちゃんてね』

星川 ひろ子・星川 治雄／著
小学館 22×27cm

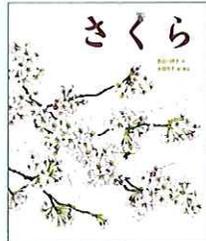
わたしのうちにあかちゃんがうまれたの。ちっちゃくて、くびはぐらぐら。でも、少しずつ、はいはいしたり歩いたりできるようになったんだよ。あかちゃんがうまれてからの一年間を姉の目で綴った写真絵本。



『あしたのてんきははれ？くもり？あめ？』

野坂 勇作／作
福音館書店 26×24cm

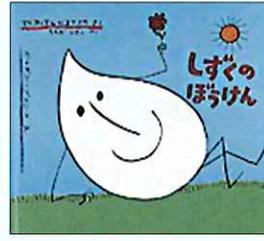
「ゆうやけは、はれ」「あさやけは、あめ」というんだって。それは、どうして？雲やおひさまや風のむきをよく観察すると、あしたの天気がわかるよ。子どもにもできる、やさしいお天気観察の絵本。



『さくら』

長谷川 摂子／文
矢間 芳子／絵・構成
福音館書店 26×24cm

さくらの木は、春になると花を咲かせ、花が散ると、次には葉を出し、秋には葉を色づかせ、やがてその葉も落ちて…。たくさんの小さな命を育みながら自らも命をつないでゆく、さくらの木の一年を描きます。



『しずくのぼうけん』

マリア・テルリコフスカ／作
ポフダン・フテンコ／絵
うちだ りさこ／訳
福音館書店 21×24 cm

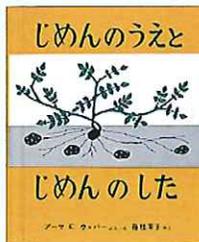
おばさんのバケツから飛びだした、水のしずく。ほこりだらけになったり、透明になって空にのぼったり、かちごちに氷ったり。ながいながい旅をする水のしずくのものがたり。



『しっぽのはたらき』

川田 健／文
数内 正幸／絵
福音館書店 26×24cm

くもざるは、しっぽで木になっているくだものを取ります。犬は、しっぽで気持ちをあらわします。リスは、しっぽで体のつりあいを取ります。どうぶつのくらし方によって、しっぽはいろいろなはたらきをします。



『じめんのうえと じめんのした』

アーマ・E・ウエバー／文・絵
藤枝 滯子／訳
福音館書店 22×18cm

植物のからだには、地面の上で生活する部分と、地面の下で生活する部分とがあります。地面の上では葉が日光にあたって空気を取り入れ、地面の下では根が水を吸いあげて、体の中で栄養をつくるのです。



『たんぼぼ』

平山 和子／文・絵
福音館書店 26×24cm

春になるとあちこちで目にするたんぼぼ。庭や公園だけでなく、歩道のすきまや石垣でも、咲いているところを見ることが出来ます。どのようにして生えたのでしょうか。たんぼぼの暮らしを観察してみましょう。



『はがぬけたらどうするの?』

セルピー・ピーラー／文
フライアン・カラス／絵
こだま ともこ／訳
フレール館 26×28cm

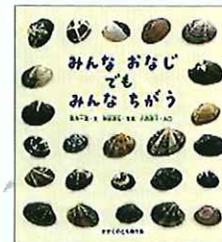
歯がぬけたら、その歯はどうしたらいいだろう。枕の下に入れて寝るんだっていう子もいるし、屋根の上に放り投げちゃうっていう子もいるよ。世界中の子どもたちにきいた、抜けた歯のはなし。



『みんなうち』

五味 太郎／作
福音館書店 25×22cm

ぞうも、ねずみも、さかなも、とりも。どうぶつそれぞれ、いろんなうち。たべものやくらしがちがうから、うちだって、かたち、いろ、におい、みんなちがう。幼い子にむけて書かれたうちの絵本。



『みんなおなじでも みんなちがう』

奥井 一満／文
得能 通弘／写真
福音館書店 26×24cm

みんなおなじ、ヒマワリの種。みんなおなじ、ウズラの卵。でも、よくみてごらん。ひとつずつ、みんなちがう。みんなおなじなんだけど、大きさ、かたち、いろ、もよう、おなじものなんて、ひとつもないよ。



『やさいのせなか』

きうち かつ／作・絵
福音館書店 19×19cm

やさいの上に紙をのせて、クレヨンでこすってみよう。紙の上には、やさいのせなかもよう。ごつごつのせなか。ぼこぼこのせなか。だれのせなかだか、わかるかな？



『はじめてのうちゅうえほん』

てづか あけみ／作・絵
パイインターナショナル 29×22cm

空を見上げてみよう。空のずっとずっと先には宇宙がひろがっているよ。宇宙にはどんな星があるかな？地球ってどんな星なのかな？幼い子どもに向けて書かれた宇宙の本。



『はははのはなし』

加古 里子／文・絵
福音館書店 26×24cm

なぜ、歯はあるのでしょうか。むし歯はなぜできるのでしょうか。むし歯だと、なぜ、いけないのでしょうか。よい歯がなぜ大切なのか、子どもに解るようにやさしく書かれた絵本。



『ふゆめがっしょうだん』

長 新太／文
富成 忠夫・茂木 透／写真
福音館書店 26×24cm

葉が落ちたあとの枝をよく見てごらん。いろんな顔が見つかるよ。ウサギの顔、コアラの顔、サル顔。みんな、頭の上にぼうしをかぶっているみたい。春を待つ冬芽の写真絵本。



『山のごちそう どんぐりの木』

ゆのき ようこ／文
川上 和生／絵
理論社 26×22cm

どんぐりを実らせるコナラの木には、一年をとおしていろんな生き物が集まります。大きなけものから小さな虫まで、生き物たちの命を育み、お返しに新しい命をもらって、生き物たちとのかかわりを描きます。



『わゴムはどのくらい のびるかしら?』

マイク・サーラー／文
ジェリー・ジョイナー／絵
岸田 衿子／訳
ほるぷ出版 19×24cm

ある日、ぼうやは、わゴムのはしをベッドの柱にひっかけて、ひっぱったまま部屋のそとに出てみたよ。自転車にのってこげるだけこいたら、つきは電車にのって。のびるのびるわゴム。一体どこまで伸びるのかな？



『わたし』

谷川 俊太郎／文
長 新太／絵
福音館書店 25×22cm

わたし、みちこ。あかちゃんからみると、おねえちゃん。おにいちゃんからみると、いもうと。おかあさんからみると、むすめで、先生からみると、生徒。みんなおなじ「わたし」。でも、みる人によってちがう「わたし」。

索引

ア行

あかちゃんてね ● 16
あしたのてんきははれ?くもり?あめ? ● 16
アリからみると ● 17
アンガスとおひる ● 5
いいおかお ● 2
いたずらきかんしゃちゅうちゅう ● 5
いちじくにんじん ● 2
いないいないばあ ● 2
王さまと九人のきょうだい ● 12
おおきなかぶ ● 6
おさじさん ● 2
おさらをあらわなかったおじさん ● 13
おさるとぼうしうり ● 13
おいしいのぼうけん ● 13
おじさんのかさ ● 13
おしゃべりなたまごやき ● 13
おそばのくきはなぜあかい ● 13
おつきさまこんばんは ● 2
おててがでたよ ● 3
おふろだいすき ● 6
おやすみなさいフランス ● 6

カ行

かいじゅうたちのいるところ ● 6
かさぶたくん ● 17
がたんごとんがたんごとん ● 3
かにむかし ● 6
かもさんおとおり ● 14
かわ ● 17
くだもの ● 3
くまさんくまさん ● 6
クリスマス人形のねがい ● 14
ぐりとぐら ● 7
くんちゃんのだいらよこう ● 7
こすすめのぼうけん ● 7
こねこのチョコレート ● 14
こんとあき ● 7

サ行

さくら ● 17
サリーのこけももつみ ● 7
3びきのくま ● 8

三びきのやぎのがらがらどん ● 8
しずかなおはなし ● 14
しずくのぼうけん ● 17
しっぽのはたらき ● 17
じめんのうえとじめんのした ● 18
じゃあじゃあびりびり ● 3
しょうぼうじどうしゃじぶた ● 8
ジョニーのかたやきパン ● 14
しろくまちゃんのほっとけーき ● 8
スイミー ● 8
スーホの白い馬 ● 14
ぞうくんのさんぽ ● 8

タ行

だいくとおにろく ● 9
たまごのあかちゃん ● 3
だるまちゃんとしてんぐちゃん ● 9
たんじょうび ● 9
たんたんぼうや ● 3
たんぽぽ ● 18
ちいさいおうち ● 9
ちいさなうさこちゃん ● 9
ちいさなねこ ● 10
チムとゆうかなせんちょうさん ● 15
でてこいでてこい ● 4
てぶくろ ● 10
どうぶつのおかあさん ● 4
どろんこハリー ● 10

ナ行

なーんだなんだ ● 4
にんじん ● 4

ハ行

ばいばい ● 4
はがぬけたらどうするの? ● 18
はじめてのうちゅうえほん ● 18
はじめてのおつかい ● 10
はしるのだいすき ● 4
はなのすきなうし ● 15
はなをくんくん ● 10
はははのはなし ● 18
はらぺこあおむし ● 11

ピーターラビットのおはなし ● 11
ひとまねこぎるときいろいぼうし ● 15
ふしぎなたけのこ ● 11
ふたりはともだち ● 15
ふゆめがっしょうだん ● 18
ぼとんぼとんはなんのおと ● 11

マ行

マーシャとくま ● 11
まりーちゃんとひつじ ● 11
みんなうんち ● 19
みんなおなじでもみんなちがう ● 19
むぎばたけ ● 15
もこもこもこ ● 5
ももたろう ● 12
もりのなか ● 12

ヤ行

ヤクーバとライオン ● 16
やさいのせなか ● 19
山のごちそうどんぐりの木 ● 19
ゆきのひ ● 12
よあけ ● 16
よくきたね ● 5

ラ行

りんご ● 5
ルピナスさん ● 16

ワ行

わゴムはどのくらいのびるかしら? ● 19
わたし ● 19
わたしのワンピース ● 12

